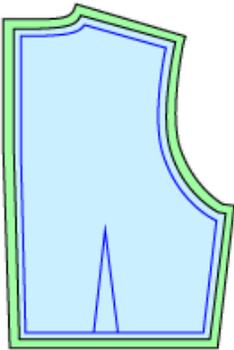
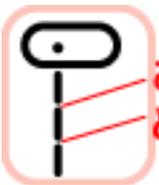


左右のデザインが違う場合は、表側から裁断すると間違いありませんよ。
縫い代の外側に印をつけ、ダーツなどの印をつける場合は切りつけをすれば後で糸を抜くだけなので、必ずしも裏から裁断しなければならないという決まりはないのですよ



この型紙には5mm外側に裏地の線が書いてあります。
裏地はテロテロしているので、綺麗に裁断したつもりでもずれが出て大きくなったり小さくなったりします。
大きい分を調節することは簡単ですが、小さいものを大きくするのは難しいので、
先に外側の線で裏地を切ると余裕が出来て綺麗に仕上がります！
そのあと、型紙の外側の裏地線を切り落とし表生地を切り出してください。



この長さが
ぬい目の長さ

裏地などの薄い生地は縫い目の長さが長いと細かいしわが入ったりしやすいです。
ミシンで作る場合、縫い目の長さを2くらいの細かさにしてください。
また針が磨耗していると繊維を断ち切って伝線しやすいです。
そのため針は薄地用の新しいものに交換をオススメします



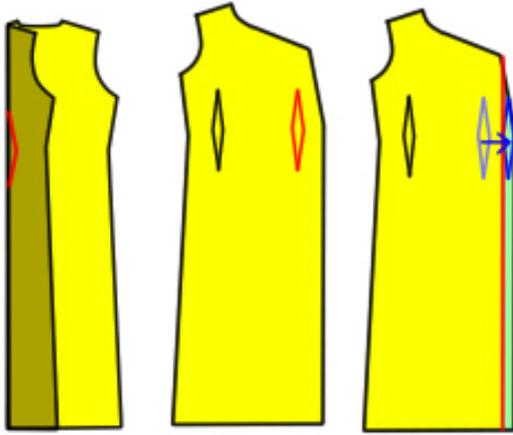
布の印のつけ方や
接着芯の貼り方は
縫う前の下準備で
詳しく説明しているよ
まだ見たことがない
人は先に見てね!

→ 縫う前の下準備

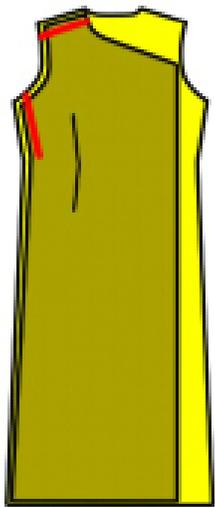
■ 表 ■ 裏 ■ 接着芯

裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。
型紙に指定された場所の裏に接着芯を貼ってください。

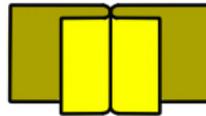
お洋服に模様や刺繍を入れたい場合はこの時点で入れておくと楽です。



ダーツ(立体にするためのつまみ)を縫ってください。
後のダーツは後中心に向けて折って下さい。
前のダーツが片方にしかないのは、ダーツ分を一番左端に移動させて作っているからです。
だから前は片方ダーツが無いんですよ



前身頃と後ろ身頃を表が内側になるように重ねて、肩と脇を縫ってください。
対側の脇と肩も同じように縫ってください。
縫い終わったら縫い代をアイロンで左右に折って下さい。



←お裁縫の用語で割るといいます。



身頃のえり首とえりを縫って下さい。



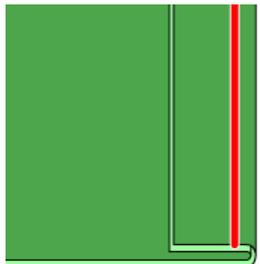
えりをおこして下さい。
アイロンで縫い代を上下に折って下さい。

裏地を表地と同じ手順で縫う。

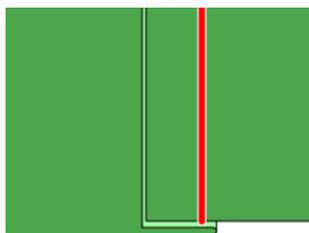


裏地を綺麗に仕上げるコツ

縫い代の幅は1.5cmありますが1cm幅で縫ってください。
5mmの差が調節用の余裕になります。

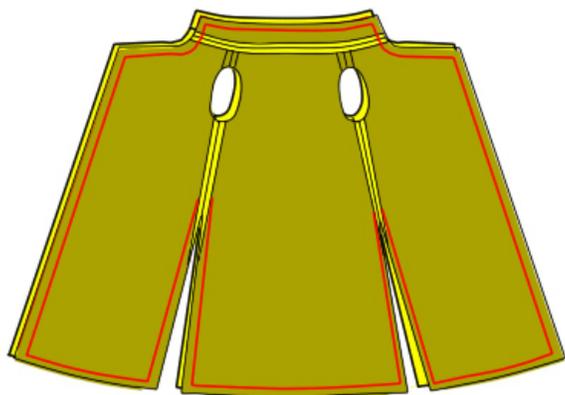


5mmほど縫い代より内側をアイロンで折ってください。
アイロンの温度は中～低温で。
温度が高いと素材によっては縮んだり、引きつったりすることがあります。



折り目を広げないように気をつけて生地を広げて、続きの作業をしてください
市販の裏地のついた洋服を見ると、同様に折り目をつけて裏地に余裕を持たせているのを確認することができますよ。
この折り目に余裕を持たせることをお裁縫用語で「キセをかける」といいます。

裏地は裁断している端からずれやすいので縫い合わせる相手の場所にあう長さになるように臨機応変にずらしてください



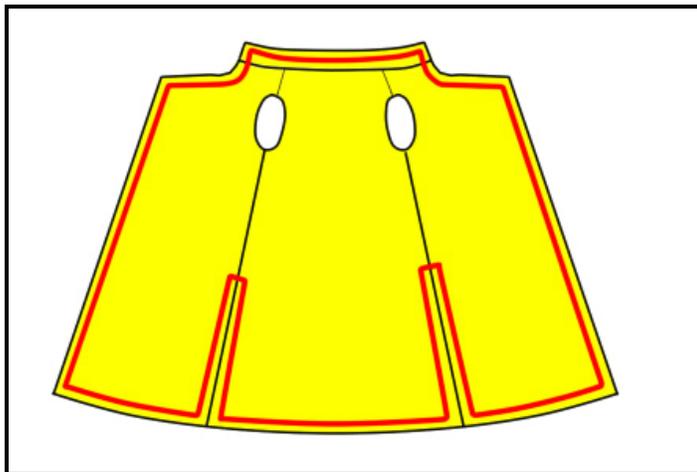
表地と裏地を中表(内側同士が表になるように重ねてください)。

まわりを一周縫ってください。

脇のスリットは実際は縫い代を縫い込まないように気をつけてよけて縫ってくださいね。

裏地の方が少しダブっていたら正常です。

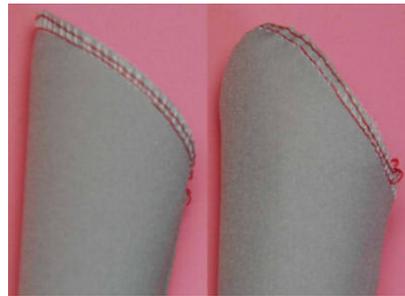
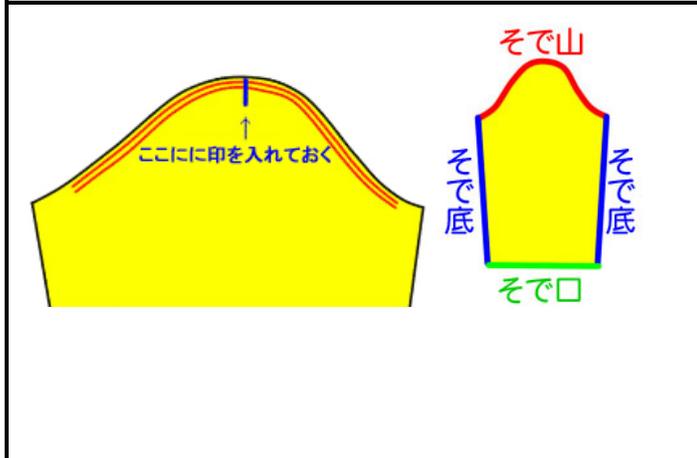
裏地に余裕が無いと表が引きつりますからね。



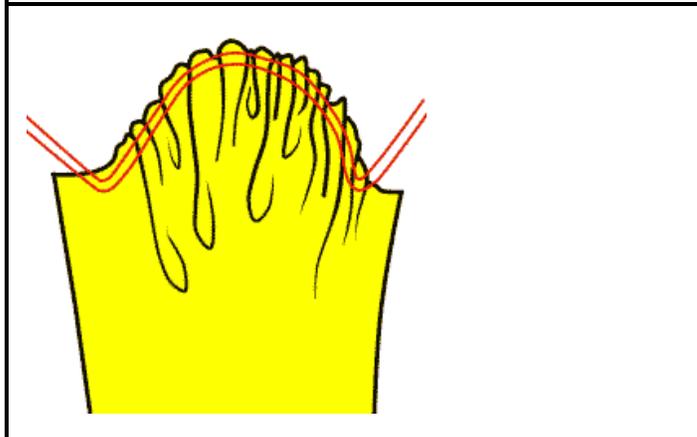
そでの所から表側にひっくり返してください。
ひっくり返したらまわりをぐるっと表から縫ってください。
見頃にバイアスをつけるときは、この時につけるとそでが無い分縫いやすいです。
[バイアスの付け方はこちら](#) (動画)



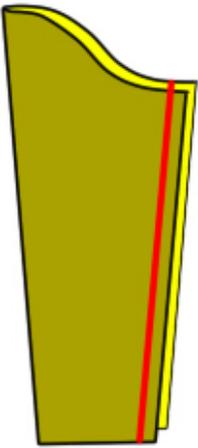
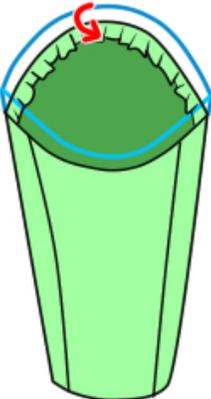
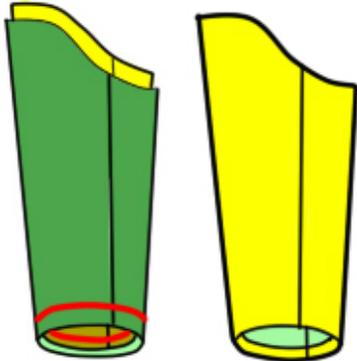
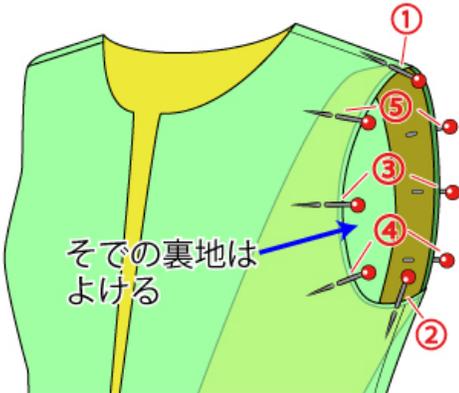
袖の裏地がずれないように端から5mm位のところを縫ってください。

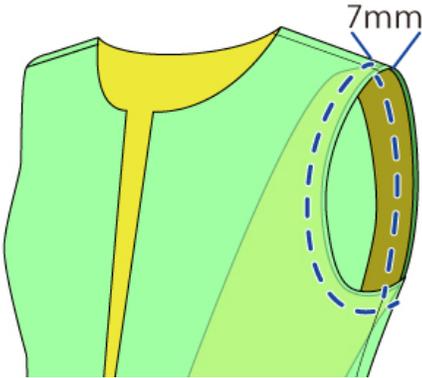
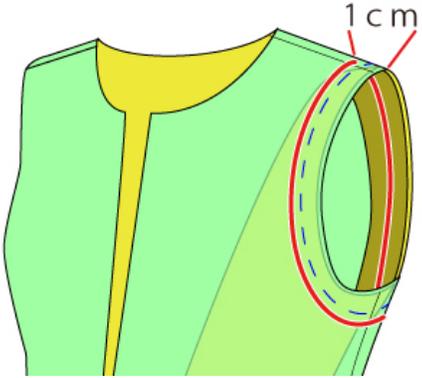
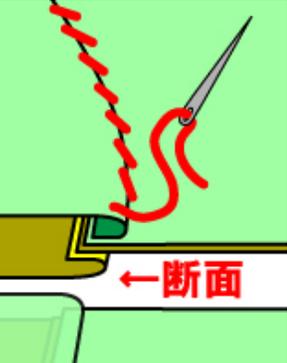


この型紙のそで山にはそでを立体にする為に余裕が入れられています。
そで山にギャザーを寄せると右側のように立体的なそでになります。



ギャザー縫いをしたら裏の方の長く残しておいた糸だけを引っ張りギャザーを寄せてください。

	<p>糸調整を元に戻してください 次にそで底を表同士が内側になるようにあわせて、赤い部分を縫ってください。</p>
	<p>裏地のそで山の縫い代をアイロンで裏側へ折ってください。</p>
	<p>そでの表地と裏地を中表に重ねてそでくち(赤い線のところ)を縫ってください。 表がえして、アイロンの折り目通りにそで口を折ってください。</p>
 <p>そでの裏地はよける</p>	 <p>そでを身頃の中に入れて、そで山と脇をピンでとめてください。 ギャザー縫いの糸を引っ張って長さを調節しながら均等にピンを刺してください。</p>

	<p>慣れていない人は端から7mmのところを仕付け糸で縫ってください。</p>
	<p>ミシンで1cmの幅で縫ってください。 ミシンで縫ったらしつけ糸は抜いてください。 縫い代はそで側に折って下さい。</p>
	<p>裏地のそで山を表地のそでの縫い代を覆うように待ち針で身頃のそでのカーブにとめてください。 手縫で表に目立たないように裏地をぬいつけてください。 裏に隠れる部分なのでしわはあまり気にしなくていいです。 それより縫い代を余分に取りすぎて、引きつらないように注意してください。</p>
	<p>スナップボタンを付けてください。 仕上げに縫い代にしっかりアイロンをかけて完成です。 仕上げのアイロンはしわをのばすよりも、縫い代にしっかり折り目をつけることが重要です。</p>

必要な材料

表生地、裏地、スナップボタン、生地にあった色の糸、接着芯

好みの色のチャイナボタンがなかなか見つからない時は、私は↓を利用して作っています。

[アジア結美](#)

カードに順番に引っ掛けていくと、チャイナボタンのような物が作れます。

あとはカードから外して、形が崩れないように、木工用ボンドなどを裏にすり込んで乾かせば完成です！

(ストラップ用の結び紐が販売されていますが、このカードには細すぎるようなので、100円均一の、江戸打ち紐(光沢のあるきつく結んだ紐)の細い物がちょうどいい感じがしました。

チャイナボタンはサイズや色が限られているので、このアジア結美のカードがあれば自分でサイズも調整できるので、おすすめです。